

J A全中 Monthly Report

併せてJ A全中ホームページ (<http://www.zenchu-ja.or.jp/>) もご覧ください。

2月

中家会長 2月講演 会長からのメッセージ

中家会長は2月15日、大阪で開催された内外情勢調査会で「持続可能な食と地域づくりに向けて」をテーマに講演しました。同会には関西の経済界関係者を中心に250名が出席しました。

講演終了後には、作家の佐藤優氏との対談も行われました。佐藤氏からは、国内で農業が営まれることや、J Aが地域で果たす役割の重要性について指摘がありました。

講演の概要は以下の通りです。

なぜ今「食料安全保障」を語るのか。時代が大きく変化する中で、これまで通り食料を安定的に享受できる時代が続くとは思えないか

らずです。わが国の食料自給率はわずか38%で、長期にわたり低迷しています。食料生産を支える基盤である人と農地も減少傾向が続いています。

では、海外から輸入すれば良いのでしょうか。近年、世界規模で自然災害が多発していますし、人口はますます増加しています。これに対して食料供給は追いついておらず、すでに約8億人が飢餓人口です。

そして、わが国はさらなる市場開放に直面しています。安価な外国産が市場に出回る一方、消費者の方々は食の安全に不安を持っていることが、政府の調査からもうか

がえます。

こうした中で私たちは、国内生産を維持・増大していかなければなりません。これらを達成するには、J Aグループだけが取り組むのではなく、国民の皆さま一人一人に、農業・農村が大事だ、支えたいと思っていただかなければなりません。また、そのためには教育も重要です。子どもたちにも、食の大切さを認識していただきたいと思っています。知育、体育、徳育とともに、食育も重要な教育の一つです。今日お集まりの皆さまや、さまざまな団体とも連携して、持続可能な食と地域をつくってまいりたいと考えています。

会長メッセージはJ Aグループのウェブサイト (<http://org.ja-group.jp/message>) に掲載しています。

第33回「食料フォーラム」を開催 若者の田園回帰を活性化につなげる

J A全中がNHKなどと連携して実施している「食料フォーラム」を2月6日、広島市内で開催しました。第33回のテーマは「農村へ向かう若者たち～田園回帰 地方を再生する処方箋～」。

「地域に役に立ちたい」「地域とつながりたい」という新しい価値観を持った都市部の若者たちが農村へ向かう動向を捉え、地域活性化につなげる方策について、金子勝さん(立教大学大学院経済学研究科特任教授)、島村菜津さん(ノンフィクション作家)、高和雄さん(ふるさと回帰支援センター副事務局長)ら



3月2日14時から約1時間、NHK Eテレで放送予定

の識者をはじめ、農産物の生産・加工に携わる松嶋匡史さん(瀬戸内ジャムズガーデン代表取締役)、溝口憲幸さん(広島菜委員会会長)の5人をパネリストに活発な議論が行われました。

テレビ地上波で特番を放送 林修先生が農業とJ Aを解説

農業とJ A、協同組合を分かりやすく取り上げる『林先生のなるほ

ど! 社会見聞録』を2月17日(日)、14時～15時20分、テレビ朝日系列で放送しました。

最先端の農業技術として、玉川大学の宇宙農場ラボ、ナイルワークス社のドローン、ゆめファーム全農のトマト栽培システム、J A陸別町(北海道)の搾乳ロボットなどを紹介。また、協同組合の思想と実践がユネスコ無形文化遺産に登録されたことをもとに、J Aが地域社会の課題解決のために活動していることをJ Aいわでやま(宮城県)の移動店舗車や、J A長野厚生連の富士見高原医療福祉センターなどのレポートを交え、解説しました。

3月10日(日)16時～17時15分、テレビ東京系列で、J Aで働く人たちを特集する『メルクリウスの扉』の放送を予定しています。

『週刊新潮』で好評連載中の中家会長のコラム「ピンチをチャンスに!」の第28回(2月21日号)、第29回(3月7日号)掲載分は、『月刊J A』のHPからもご覧いただけます。